ＦＡＸ ０３-３３４０-５４４８ 厚生労働省エイズ治療薬研究班 班長 へFAXでお送り下さい。
原本は施設長承諾書とともに事務局へ郵送してください。

（2）班員登録書

年　月　日

厚生労働省エイズ治療薬研究班　班長　福武　勝幸　殿

私は厚生労働省エイズ治療薬研究班に研究協力者（班員）として参加することを承諾します。

フリガナ 氏　名	印
所属病院名 住　所	
診療科名	
職　責	
緊急連絡先 自宅住所　電話　FAX E-mail 等	

厚生労働省エイズ治療薬研究班の薬剤による治療研究を実施する医師は、当研究班の規定により研究協力者（班員）となっていただかなければなりません。厚生労働省エイズ治療薬研究班はヒューマンサイエンス振興財団のエイズ医薬品等開発推進事業からの研究費により運営されています。

班長連絡先　東京医科大学病院　臨床検査医学科　主任教授　福武　勝幸
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1
TEL　03-3342-6111 EXT5086　FAX　03-3340-5448
事務局連絡先　パレクセル・インターナショナル株式会社
エイズ治療薬研究班事務局担当者
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-20　錦町安田ビル
TEL 03-3518-6022　FAX 03-3518-6014

（3）施設長承諾書の原本は（2）班員登録書とともに、厚生労働省エイズ治療薬研究班事務局へ郵便にて提出してください。

（3）施設長承諾書

年　月　日

厚生労働省エイズ治療薬研究班　班長　福武　勝幸　殿

フリガナ 氏　名	
診療科名	
職　責	

上記の者が厚生労働省エイズ治療薬研究班に研究協力者（班員）として参加することを承諾します。

施　設　長　氏　名	印
職　　責	
施　設　名 住所	

厚生労働省エイズ治療薬研究班の薬剤による治療研究を実施する医師は、当研究班の規定により研究協力者（班員）となっていただかなければなりません。厚生労働省エイズ治療薬研究班はヒューマンサイエンス振興財団のエイズ医薬品等開発推進事業からの研究費により運営されています。

班長連絡先　東京医科大学病院　臨床検査医学科　主任教授　福武　勝幸
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1
TEL03-3342-6111 EXT5086　FAX 03-3340-5448
事務局連絡先　パレクセル・インターナショナル株式会社
エイズ治療薬研究班事務局担当者
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-20　錦町安田ビル
TEL 03-3518-6022　FAX 03-3518-6014

本文書は３通作成し、１通は厚生労働省エイズ治療薬研究班事務局へ書留郵便で提出し、他は患者、主治医がそれぞれ保管してください。（同一薬剤の継続時は初回のみ必要です。）

（4）患者同意書

年　月　日

厚生労働省エイズ治療薬研究班　班長　福武　勝幸　殿

フリガナ 申請者（主治医）氏名		病院名・〒住所	
診療科名			
職　責			
患者氏名（イニシャル）　姓［　　］. 名［　　］.			男　・　女
カルテ番号［　　］		生年月日	年　月　日

上記の患者さんに対して、以下の内容について十分に説明したうえ同意を得ました。

同意書

私は私の病気（　　）の治療のために、厚生労働省エイズ治療薬研究班から治療薬（　　）の提供を受けることに関して、上記の担当医師から下記の内容について説明を受け、また質問する機会も得て理解いたしましたので、この治療を受けることに同意いたします。

説明内容

1.この治療の目的と意義
2.予期される効果と副作用
3.他の治療法の有無とその内容
4.同意しない場合でも今後の治療に不利益を受けないこと。
5.同意した場合でも随時これを撤回でき今後の治療に不利益を受けないこと。
6.わからない点は、いつでも質問し説明を受けられること。
7.プライバシーは厳重に守られること。

同意取得日	年　月　日			
フリガナ 患者氏名 （自署）	印	フリガナ 代諾者氏名 （自署）	印	続柄
生年月日	年　月　日			
住所		代諾者住所		

本文書は薬剤を受け取り次第、念書とともに厚生労働省エイズ治療薬研究班事務局へ郵便で提出してください。

（5）薬剤受領書

年　月　日

厚生労働省エイズ治療薬研究班　班長　福武　勝幸　殿

薬　剤　名	数　量

上記の薬剤を確かに受領いたしました。

フリガナ 受領者（主治医） 氏名	印
診療科名	
職　責	
病院名・〒住所	

班長連絡先　東京医科大学病院　臨床検査医学科　主任教授　福武　勝幸
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1
TEL03-3342-6111 EXT5086　FAX 03-3340-5448
事務局連絡先　パレクセル・インターナショナル株式会社
エイズ治療薬研究班事務局担当者
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-20　錦町安田ビル
TEL 03-3518-6022　FAX 03-3518-6014

(6) 臨床研究使用成績調査票 (1)

臨床経過と検査値の推移を各ポイント記載する毎に本表のコピーも事務局へお送り下さい

主治医氏名	印	病院名・〒住所	
診療科名			
職　責			
電話番号	(　)	FAX番号	(　)
E-Mail			

患者氏名（イニシャル） 姓［　］. 名［　］.	男・女	身長　cm
カルテ番号［　］ 生年月日		年　月　日
合併症 1. 無し 2. 慢性肝炎 3. 肝硬変 4. 腎障害 5. 糖尿病 6. 高脂血症 7. 血友病 8. その他（　）		

今回使用した研究班の薬（研究班の薬剤を全てを記載して下さい。）

薬剤名	含有量・剤形	1日量と投与回数	投与期間（年/月/日）
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /

研究班の薬剤を投与中に使用した併用薬を全て記載してください。

薬剤名	剤形	1日量と投与回数	投与期間（年/月/日）
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /
		/日　回/日	/ /　-　/ /

(7) 臨床研究使用成績調査票 (2)

臨床経過と臨床検査値の推移　　ポイント毎に記入し、記入毎に事務局へお送り下さい。

主治医氏名	印	病院名・〒住所	
診療科名			
職　責			
患者氏名（イニシャル）　姓 [　　]. 名 [　　].		男 ・ 女	
カルテ番号 [　　]		生年月日	年　月　日

検査ポイント	投与前	開始後　ヶ月	開始後　ヶ月	開始後　ヶ月
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
外来・入院	外来・入院	外来・入院	外来・入院	外来・入院
体重	Kg	Kg	Kg	Kg
体温	℃	℃	℃	℃
血圧	/ mmHg	/ mmHg	/ mmHg	/ mmHg
症状の程度	3+・2+・1+・-	3+・2+・1+・-	3+・2+・1+・-	3+・2+・1+・-
CD4細胞数	/μl	/μl	/μl	/μl
HIV-RNA量	×10　/ml	×10　/ml	×10　/ml	×10　/ml
白血球数 WBC	/μl	/μl	/μl	/μl
赤血球数 RBC	/μl	/μl	/μl	/μl
Hb	g/dl	g/dl	g/dl	g/dl
Htc	%	%	%	%
血小板数	/μl	/μl	/μl	/μl
好中球%	%	%	%	%
好酸球%	%	%	%	%
好塩基球%	%	%	%	%
リンパ球%	%	%	%	%
単球%	%	%	%	%
TP	g/dl	g/dl	g/dl	g/dl
T-Bil	mg/dl	mg/dl	mg/dl	mg/dl
GOT	IU/L	IU/L	IU/L	IU/L
GPT	IU/L	IU/L	IU/L	IU/L
γGTP	IU/L	IU/L	IU/L	IU/L
BUN	mg/dl	mg/dl	mg/dl	mg/dl
クレアチニン	mg/dl	mg/dl	mg/dl	mg/dl
尿酸	mg/dl	mg/dl	mg/dl	mg/dl
総コレステロール	mg/dl	mg/dl	mg/dl	mg/dl
中性脂肪	mg/dl	mg/dl	mg/dl	mg/dl
グルコース	mg/dl	mg/dl	mg/dl	mg/dl
尿蛋白	−・+−・+・++	−・+−・+・++	−・+−・+・++	−・+−・+・++
尿糖	−・+−・+・++	−・+−・+・++	−・+−・+・++	−・+−・+・++
尿潜血反応	−・+−・+・++	−・+−・+・++	−・+−・+・++	−・+−・+・++
尿沈さ異常と内容	無・(　　)	無・(　　)	無・(　　)	無・(　　)

(8) 臨床研究使用成績調査票 (3)

その他の重要な臨床検査成績

XP，CT，MRI，シンチグラム等

検査毎に記入し、記入毎に事務局へお送り下さい。

主治医氏名	印	病院名・〒住所		
診療科名				
職　　責				
患者氏名（イニシャル）　姓［　　］. 名［　　］.			男 ・ 女	
カルテ番号［　　］		生年月日	年　　月　　日	

（9）有害事象発生報告書

年　月　日

有害事象が発生したら直ちに記入して、FAXで事務局03-3518-6014へお送り下さい。

主治医氏名	印	病院名・〒住所	
診療科名			
職　責			
患者氏名（イニシャル）　姓［　　］. 名［　　］.		男・女	
カルテ番号［　　］		生年月日	年　月　日

有害事象の内容		
発生日時	年　月　日　午前・午後　時	
経過と処置		
程度（主治医判断）	軽症　・　中等度　・　重篤	
薬剤との因果関係	1.関連有り　2. 関連が否定出来ない　3. 関連無し　4. 不明	
関連有ると思われる薬剤	薬剤名	理由

転帰報告書

転帰を判定したら直ちに記入し事務局へお送り下さい。

判定日時	年　月　日　午前・午後　時
転　帰	回復　・　軽快　・　死亡　・　後遺症
死因・後遺症	
薬剤との因果関係	1．関連有り　2．関連が否定出来ない　3．関連無し　4．不明

［別紙第２号様式］

念　　書

平成　　年　　月　　日

厚生労働大臣　殿

輸入業者（受取人）氏名（法人にあっては名称及び代表者の氏名）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

同住所（法人にあっては主たる事務所の所在地）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今般、別紙輸入報告書により報告いたしました下記 医薬品は（　医師個人用　）として使用するもので、他に販売、授与するものではありません。
つきましては、本品の通関手続に関しよろしくお取り計らい願います。
上述のとおり、後日のため念書差入れます。

記

品　　名	数　　量

（この様式の大きさは日本工業規格Ａ４とすること）

念書の取扱についてのお願い

厚生労働省エイズ治療薬研究班
主任研究者(班長)　福武　勝幸

この念書は医師個人輸入の手続きにおいて厚生労働省へ必ず提出しなければならないものです。研究班の存続のために最も重要な書類ですので、遅滞なく班長へご返送いただきますようお願いいたします。

当研究班においては、厚生労働省の特別な配慮により薬剤を班長名であらかじめ輸入し通関しておりますが、本念書をご提出いただくことにより、各主治医か個人輸入したのと同等に扱うこととなり、薬事法に抵触することなく各医師へ薬剤をお届けする形で研究班が機能できる仕組みになっております。(この念書は当研究班専用のもので、一般の個人輸入の書式とは異なります。)

記載上の注意

日付欄には薬剤をお受け取りになった日付をご記入ください。輸入業者（受取人）氏名（法人にあっては名称及び代表者の氏名）の欄には、薬剤を研究班へ申請された医師の所属施設と氏名をご記入ください。また、同住所（法人にあっては主たる事務所の所在地）の欄には、医師の所属する施設の住所を御記載ください。お受け取りになった薬剤の品名と数量をご記載ください。

念書返送先

班長連絡先　　東京医科大学病院　臨床検査医学科　　主任教授　福武　勝幸
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1
TEL03-3342-6111 EXT5086　FAX 03-3340-5448

薬剤受領書返送先

事務局連絡先　　パレクセル・インターナショナル株式会社
エイズ治療薬研究班事務局担当者
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-20　錦町安田ビル
TEL 03-3518-6022　FAX 03-3518-6014

ATTENTION PHARMACIST: Detach "Patient's Instructions for Use" from package insert and dispense with product. Dispense the capsules in the unit of use container.

Aptivus®
(tipranavir)
Capsules, 250 mg

Boehringer Ingelheim

Prescribing Information

WARNING

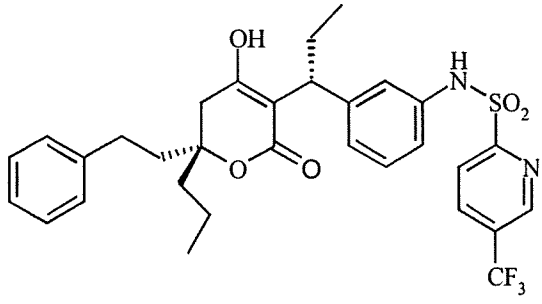
APTIVUS CO-ADMINISTERED WITH 200 MG RITONAVIR HAS BEEN ASSOCIATED WITH REPORTS OF CLINICAL HEPATITIS AND HEPATIC DECOMPENSATION INCLUDING SOME FATALITIES. EXTRA VIGILANCE IS WARRANTED IN PATIENTS WITH CHRONIC HEPATITIS B OR HEPATITIS C CO-INFECTION, AS THESE PATIENTS HAVE AN INCREASED RISK OF HEPATOTOXICITY. (SEE WARNINGS)

DESCRIPTION

APTIVUS® (tipranavir) is the brand name for tipranavir (TPV), a non-peptidic protease inhibitor (PI) of HIV belonging to the class of 4-hydroxy-5,6-dihydro-2-pyrone sulfonamides.

APTIVUS soft gelatin capsules are for oral administration. Each capsule contains 250 mg tipranavir. The major inactive ingredients in the capsule are dehydrated alcohol (7% w/w or 0.1 g per capsule), polyoxyl 35 castor oil, propylene glycol, mono/diglycerides of caprylic/capric acid and gelatin.

The chemical name of tipranavir is 2-Pyridinesulfonamide, N-[3-[(1R)-1-[(6R)-5,6-dihydro-4-hydroxy-2-oxo-6-(2-phenylethyl)-6-propyl-2H-pyran-3-yl]propyl]phenyl]-5-(trifluoromethyl). It has a molecular formula of $C_{31}H_{33}F_3N_2O_5S$ and a molecular weight of 602.7. Tipranavir has the following structural formula and is a single stereoisomer with the 1R, 6R configuration.



Tipranavir is a white to off-white to slightly yellow solid. It is freely soluble in dehydrated alcohol and propylene glycol, and insoluble in aqueous buffer at pH 7.5.

CLINICAL PHARMACOLOGY

Microbiology

Mechanism of Action

Tipranavir (TPV) is a non-peptidic HIV-1 protease inhibitor that inhibits the virus-specific processing of the viral Gag and Gag-Pol polyproteins in HIV-1 infected cells, thus preventing formation of mature virions.

Antiviral Activity

Tipranavir inhibits the replication of laboratory strains of HIV-1 and clinical isolates in acute models of T-cell infection, with 50% effective concentrations (EC_{50}) ranging from 0.03 to 0.07 μM (18-42 ng/mL). Tipranavir demonstrates antiviral activity *in vitro* against a broad panel of HIV-1 group M non-clade B isolates (A, C, D, F, G, H, CRF01 AE, CRF02 AG, CRF12 BF). Group O and HIV-2 isolates have reduced susceptibility *in vitro* to tipranavir with EC_{50} values ranging from 0.164 -1 μM and 0.233-0.522 μM, respectively. Protein binding studies have shown that the antiviral activity of tipranavir decreases on average 3.75-fold in conditions where human serum is present. When used with other antiretroviral agents *in vitro*, the combination of tipranavir was additive to antagonistic with other protease inhibitors (amprenavir, atazanavir, indinavir, lopinavir, nelfinavir, ritonavir, and saquinavir) and generally additive with the NNRTIs (delavirdine, efavirenz, and nevirapine) and the NRTIs (abacavir, didanosine, emtricitabine, lamivudine, stavudine, tenofovir, and zidovudine). Tipranavir was synergistic with the HIV fusion inhibitor enfuvirtide. There was no antagonism of the *in vitro* combinations of tipranavir with either adefovir or ribavirin, used in the treatment of viral hepatitis.

Resistance

In vitro: HIV-1 isolates with a decreased susceptibility to tipranavir have been selected *in vitro* and obtained from patients treated with APTIVUS/ritonavir (TPV/ritonavir). HIV-1 isolates that were 87-fold resistant to tipranavir were selected *in vitro* by 9 months and contained 10 protease mutations that developed in the following order: L33F, I84V, K45I, I13V, V32I, V82L, M36I, A71V, L10F, and I54V/T. Changes in the Gag polyprotein CA/P2 cleavage site were also observed following drug selection. Experiments with site-directed mutants of HIV-1 showed that the presence of 6 mutations in the protease coding sequence (I13V, V32I, L33F, K45I, V82L, I84V) conferred > 10-fold reduced susceptibility to tipranavir. Recombinant viruses showing ≥ 3-fold reduced susceptibility to tipranavir were growth impaired.

Clinical Studies of Treatment-Experienced Patients: In Phase 3 studies 1182.12 and 1182.48, multiple protease inhibitor-resistant HIV-1 isolates from 59 highly treatment-experienced patients who received APTIVUS/ritonavir and experienced virologic rebound developed amino acid substitutions that were associated with resistance to tipranavir. The most common amino acid substitutions that developed on 500/200mg APTIVUS/ritonavir in greater than 20% of APTIVUS/ritonavir virologic failure isolates were L33V/I/F, V82T, and I84V. Other substitutions that developed in 10 to 20% of APTIVUS/ritonavir virologic failure isolates included L10V/I/S, I13V, E35D/G/N, I47V, K55R, V82L, and L89V/M. Tipranavir resistance was detected at virologic rebound after an average of

38 weeks of APTIVUS/ritonavir treatment with a median 14-fold decrease in tipranavir susceptibility. The resistance profile in treatment-naïve subjects has not been characterized.

Cross-resistance

Cross-resistance among protease inibitors has been observed. Tipranavir had < 4-fold decreased susceptibility against 90% (94/105) of HIV-1 isolates resistant to amprenavir, atazanavir, indinavir, lopinavir, nelfinavir, ritonavir, or saquinavir. Tipranavir-resistant viruses which emerged *in vitro* had decreased susceptibility to the protease inhibitors amprenavir, atazanavir, indinavir, lopinavir, nelfinavir and ritonavir but remained sensitive to saquinavir.

Baseline Genotype and Virologic Outcome Analyses

Genotypic and/or phenotypic analysis of baseline virus may aid in determining tipranavir susceptibility before initiation of APTIVUS/ritonavir therapy. Several analyses were conducted to evaluate the impact of specific mutations and mutational patterns on virologic outcome. Both the type and number of baseline protease inhibitor mutations as well as use of additional active agents (e.g., enfuvirtide) affected APTIVUS/ritonavir response rates in Phase 3 studies 1182.12 and 1182.48 through Week 24 of treatment.

Regression analyses of baseline and/or on-treatment HIV-1 genotypes from 860 highly treatment-experienced patients in Phase 2 and 3 studies demonstrated that mutations at 16 amino acid codons in the HIV protease coding sequence were associated with reduced virologic responses at 24 weeks and/or reduced tipranavir susceptibility: L10V, I13V, K20M/R/V, L33F, E35G, M36I, K43T, M46L, I47V, I54A/M/V, Q58E, H69K, T74P, V82L/T, N83D or I84V.

Analyses were also conducted to assess virologic outcome by the number of primary protease inhibitor mutations present at baseline. Response rates were reduced if five or more protease inhibitor-associated mutations were present at baseline and subjects did not receive concomitant enfuvirtide with APTIVUS/ritonavir. See Table 1.

Table 1 Phase 3 Studies 1182.12 and 1182.48: Proportion of Responders (confirmed $\geq 1 \log_{10}$ decrease at Week 24) by Number of Baseline Primary Protease Inhibitor (PI) Mutations

Number of Baseline Primary PI Mutations[a]	APTIVUS/ritonavir N = 513		Comparator PI/ritonavir N = 502	
	No Enfuvirtide	+ Enfuvirtide	No Enfuvirtide	+ Enfuvirtide
Overall	40% (147/368)	64% (93/145)	19% (75/390)	30% (34/112)
1 - 2	68% (26/38)	75% (3/4)	41% (17/41)	100% (2/2)
3 - 4	44% (78/176)	64% (39/61)	23% (39/170)	40% (21/52)
5+	28% (43/151)	64% (51/80)	11% (19/178)	19% (11/57)

[a] Primary PI mutations include any amino acid change at positions 30, 32, 36, 46, 47, 48, 50, 53, 54, 82, 84, 88 and 90

The median change from baseline in HIV-1 RNA at weeks 2, 4, 8, 16 and 24 was evaluated by the number of baseline primary protease inhibitor mutations (1-4 or ≥ 5) in subjects who received APTIVUS/ritonavir with or without enfuvirtide. The following observations were made:

- Approximately 1.5 $\log_{10}$ decrease in HIV-1 RNA at early time points (Week 2) regardless of the number of baseline primary protease inhibitor mutations (1-4 or 5+).
- Subjects with 5 or more primary protease inhibitor mutations in their HIV-1 at baseline who received APTIVUS/ritonavir without enfuvirtide (n=204) began to lose their antiviral response after Week 4.
- Early HIV-1 RNA decreases (1.5–2 $\log_{10}$) were sustained through Week 24 in subjects with 5 or more primary protease inhibitor mutations at baseline who received enfuvirtide with APTIVUS/ritonavir (n=88).

Conclusions regarding the relevance of particular mutations or mutational patterns are subject to change pending additional data.

Baseline Phenotype and Virologic Outcome Analyses

APTIVUS/ritonavir response rates were also assessed by baseline tipranavir phenotype. Relationships between baseline phenotypic susceptibility to tipranavir, mutations at protease amino acid codons 33, 82, 84 and 90, tipranavir resistance-associated mutations, and response to APTIVUS/ritonavir therapy at Week 24 are summarized in Table 2. These baseline phenotype groups are not meant to represent clinical susceptibility breakpoints for APTIVUS/ritonavir because the data are based on the select 1182.12 and 1182.48 patient population. The data are provided to give clinicians information on the likelihood of virologic success based on pre-treatment susceptibility to APTIVUS/ritonavir in highly protease inhibitor-experienced patients.

Table 2 Response by Baseline Tipranavir Phenotype in the 1182.12 and 1182.48 Trials

Baseline Tipranavir Phenotype (Fold Change)[a]	Proportion of Responders[b] with No Enfuvirtide Use	Proportion of Responders[b] with ENF Use	# of Baseline Protease Mutations at 33, 82, 84, 90	# of Baseline Tipranavir Resistance-Associated Mutations[c]	Tipranavir Susceptibility
0-3	45% (74/163)	77% (46/60)	0-2	0-4	Susceptible
> 3-10	21% (10/47)	43% (12/28)	3	5-7	Decreased Susceptibility
> 10	0% (0/8)	57% (4/7)	4	8+	Resistant

[a] Change in tipranavir IC_{50} value from wild-type reference

[b] Confirmed ≥1 $\log_{10}$ decrease at Week 24

[c] Number of amino acid substitutions in HIV protease among L10V, I13V, K20M/R/V, L33F, E35G, M36I, K43T, M46L, I47V, I54A/M/V, Q58E, H69K, T74P, V82L/T, N83D or I84V

Pharmacodynamics

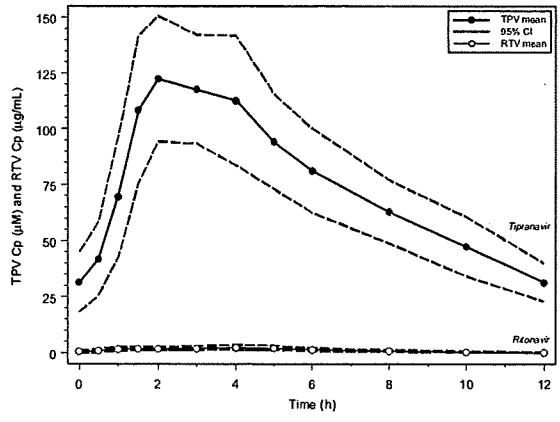
The median Inhibitory Quotient (IQ) determined from 301 highly treatment-experienced patients was about 75 (inter-quartile range: 29-189), from pivotal clinical trials 1182.12 and 1182.48. The IQ is defined as the tipranavir trough concentration divided by the viral IC_{50} value, corrected for protein binding. There was a relationship between the proportion of patients with a ≥ 1 $\log_{10}$ reduction of viral load from baseline at week 24 and their IQ value. Among the 206 patients receiving APTIVUS/ritonavir without enfuvirtide, the response rate was 23% in those with an IQ value < 75 and 55% in those with an IQ value $\geq$ 75. Among the 95 patients receiving APTIVUS/ritonavir with enfuvirtide, the response rates in patients with an IQ value < 75 versus those with an IQ value $\geq$ 75 were 43% and 84%, respectively. These IQ groups are derived from a select population and are not meant to represent clinical breakpoints.

Pharmacokinetics in Adult Patients

In order to achieve effective tipranavir plasma concentrations and a twice-daily dosing regimen, co-administration of APTIVUS with 200 mg of ritonavir is essential (see **PRECAUTIONS** and **DOSAGE AND ADMINISTRATION**). Ritonavir inhibits hepatic cytochrome P450 3A (CYP 3A), the intestinal P-glycoprotein (P-gp) efflux pump and possibly intestinal CYP 3A. In a dose-ranging evaluation in 113 HIV-negative male and female volunteers, there was a 29-fold increase in the geometric mean morning steady-state trough plasma concentrations of tipranavir following tipranavir co-administered with low-dose ritonavir (500/200 mg twice daily) compared to tipranavir 500 mg twice daily without ritonavir.

Figure 1 displays mean plasma concentrations of tipranavir and ritonavir at steady state for the 500/200 mg tipranavir/ritonavir dose.

Figure 1 Mean Steady State Tipranavir Plasma Concentrations (95% CI) with Ritonavir Co-administration (tipranavir/ritonavir 500/200 mg BID)



Absorption and Bioavailability

Absorption of tipranavir in humans is limited, although no absolute quantification of absorption is available. Tipranavir is a P-gp substrate, a weak P-gp inhibitor, and appears to be a potent P-gp inducer as well. *In vivo* data suggest that the net effect of tipranavir/ritonavir at the proposed dose regimen (500/200 mg) is P-gp induction at steady-state, although ritonavir is a P-gp inhibitor. Tipranavir trough concentrations at steady-state are about 70% lower than those on Day 1, presumably due to intestinal P-gp induction. Steady state is attained in most subjects after 7-10 days of dosing.

Dosing with APTIVUS 500 mg concomitant with 200 mg ritonavir twice-daily for greater than 2 weeks and without meal restriction produced the following pharmacokinetic parameters for female and male HIV-positive patients. See Table 3.

Table 3 Pharmacokinetic Parameters[a] of tipranavir/ritonavir 500/200 mg for HIV+ Patients by Gender

	Females (n = 14)	Males (n = 106)
$C_{ptrough}$ (μM)	41.6 ± 24.3	35.6 ± 16.7
C_{max} (μM)	94.8 ± 22.8	77.6 ± 16.6
T_{max} (h)	2.9	3.0
$AUC_{0\text{-}12h}$ (μM•h)	851 ± 309	710 ± 207
CL (L/h)	1.15	1.27
V (L)	7.7	10.2
$t_{1/2}$ (h)	5.5	6.0

[a]Population pharmacokinetic parameters reported as mean ± standard deviation

Effects of Food on Oral Absorption

APTIVUS capsules co-administered with ritonavir should be taken with food. Bioavailability is increased with a high fat meal. Tipranavir capsules, administered under high fat meal conditions or with a light snack of toast and skimmed milk, were tested in a multiple dose study. High-fat meals (868 kcal, 53% derived from fat, 31% derived from carbohydrates) enhanced the extent of bioavailability (AUC point estimate 1.31, confidence interval 1.23-1.39), but had minimal effect on peak tipranavir concentrations (C_{max} point estimate 1.16, confidence interval 1.09-1.24).

When APTIVUS, co-administered with low-dose ritonavir, was co-administered with 20 mL of aluminum and magnesium-based liquid antacid, tipranavir AUC_{12h}, C_{max} and C_{12h} were reduced by 25-29%. Consideration should be given to separating tipranavir/ritonavir dosing from antacid administration to prevent reduced absorption of tipranavir.

Distribution

Tipranavir is extensively bound to plasma proteins (> 99.9%). It binds to both human serum albumin and α-1-acid glycoprotein. The mean fraction of APTIVUS (dosed without ritonavir) unbound in plasma was similar in clinical samples from healthy volunteers (0.015% ± 0.006%) and HIV-positive patients (0.019% ± 0.076%). Total plasma tipranavir concentrations for these samples ranged from 9 to 82 μM. The unbound fraction of tipranavir appeared to be independent of total drug concentration over this concentration range.

No studies have been conducted to determine the distribution of tipranavir into human cerebrospinal fluid or semen.

Metabolism

In vitro metabolism studies with human liver microsomes indicated that CYP 3A4 is the predominant CYP enzyme involved in tipranavir metabolism.

The oral clearance of tipranavir decreased after the addition of ritonavir, which may represent diminished first-pass clearance of the drug at the gastrointestinal tract as well as the liver.

The metabolism of tipranavir in the presence of 200 mg ritonavir is minimal. Administration of ^{14}C-tipranavir to subjects that received tipranavir/ritonavir 500/200 mg dosed to steady-state demonstrated that unchanged tipranavir accounted for 98.4% or greater of the total plasma radioactivity circulating at 3, 8, or 12 hours after dosing. Only a few metabolites were found in plasma, and all were at trace levels (0.2% or less of the plasma radioactivity). In feces, unchanged tipranavir represented the majority of fecal radioactivity (79.9% of fecal radioactivity). The most abundant fecal metabolite, at 4.9% of fecal radioactivity (3.2% of dose), was a hydroxyl metabolite of tipranavir. In urine, unchanged tipranavir was found in trace amounts (0.5% of urine radioactivity). The most abundant urinary metabolite, at 11.0% of urine radioactivity (0.5% of dose) was a glucuronide conjugate of tipranavir.

Elimination

Administration of ^{14}C-tipranavir to subjects (n=8) that received tipranavir/ritonavir 500/200 mg dosed to steady-state demonstrated that most radioactivity (median 82.3%) was excreted in feces, while only a median of 4.4% of the radioactive dose administered was recovered in urine. In addition, most radioactivity (56%) was excreted between 24 and 96 hours after dosing. The effective mean elimination half-life of tipranavir/ritonavir in healthy volunteers (n=67) and HIV-infected adult patients (n=120) was approximately 4.8 and 6.0 hours, respectively, at steady state following a dose of 500/200 mg twice daily with a light meal.

Pharmacokinetics in Special Populations

Renal Impairment

APTIVUS pharmacokinetics has not been studied in patients with renal dysfunction. However, since the renal clearance of tipranavir is negligible, a decrease in total body clearance is not expected in patients with renal insufficiency.

Hepatic Impairment

In a study comparing 9 patients with mild (Child-Pugh A) hepatic impairment to 9 controls, the single and multiple dose plasma concentrations of tipranavir and ritonavir were increased in patients with hepatic impairment, but were within the range observed in clinical trials. No dosing adjustment is required in patients with mild hepatic impairment.

The influence of moderate hepatic impairment (Child-Pugh B) or severe hepatic impairment (Child-Pugh C) on the multiple-dose pharmacokinetics of tipranavir administered with ritonavir has not been evaluated (see **DOSAGE AND ADMINISTRATION, CONTRAINDICATIONS,** and **WARNINGS**).

Gender

Evaluation of steady-state plasma tipranavir trough concentrations at 10-14 h after dosing from the 1182.12 and 1182.48 studies demonstrated that females generally had higher tipranavir concentrations than males. After 4 weeks of tipranavir/ritonavir 500/200 mg BID, the median plasma trough concentration of tipranavir was 43.9 μM for females and 31.1 μM for males. The difference in concentrations does not warrant a dose adjustment.

Race

Evaluation of steady-state plasma tipranavir trough concentrations at 10-14 h after dosing from the 1182.12 and 1182.48 studies demonstrated that white males generally had more variability in tipranavir concentrations than black males, but the median concentration and the range making up the majority of the data are comparable between the races.

Geriatric Patients

Evaluation of steady-state plasma tipranavir trough concentrations at 10-14 h after dosing from the 1182.12 and 1182.48 studies demonstrated that there was no change in median trough tipranavir concentrations as age increased for either gender through 65 years of age. There were an insufficient number of women greater than age 65 years in the two trials to evaluate the elderly, but the trend of consistent trough tipranavir concentrations with increasing age through 80 years for men was supported.

Pediatric Patients

The pharmacokinetic profile of tipranavir in pediatric patients has not been established.

Drug Interactions

See also **CONTRAINDICATIONS, WARNINGS** and **PRECAUTIONS, Drug Interactions.**

APTIVUS co-administered with 200 mg of ritonavir can alter plasma exposure of other drugs and other drugs may alter plasma exposure of tipranavir.

Potential for tipranavir/ritonavir to Affect Other Drugs

1. APTIVUS co-administered with 200 mg of ritonavir at the recommended dose, is a net inhibitor of CYP 3A and may increase plasma concentrations of agents that are primarily metabolized by CYP 3A. Thus, co-administration of APTIVUS/ritonavir with drugs highly dependent on CYP 3A for clearance and for which elevated plasma concentrations are associated with serious and/or life-threatening events should be contraindicated. Co-administration with other CYP 3A substrates may require a dose adjustment or additional monitoring (see **CONTRAINDICATIONS** and **PRECAUTIONS**).

2. Studies in human liver microsomes indicated tipranavir is an inhibitor of CYP 1A2, CYP 2C9, CYP 2C19 and CYP 2D6. The potential net effect of tipranavir/ritonavir on CYP 2D6 is inhibition, because ritonavir is a CYP 2D6 inhibitor. The *in vivo* net effect of tipranavir administered with ritonavir on CYP 1A2, CYP 2C9 and CYP 2C19 is not known. Data are not available to indicate whether tipranavir inhibits or induces glucuronosyl transferases and whether tipranavir induces CYP 1A2, CYP 2C9 and CYP 2C19.

3. Tipranavir is a P-gp substrate, a weak P-gp inhibitor, and appears to be a potent P-gp inducer as well. Data suggest that the net effect of tipranavir co-administered with 200 mg of ritonavir is P-gp induction at steady-state, although ritonavir is a P-gp inhibitor.

4. It is difficult to predict the net effect of APTIVUS administered with ritonavir on oral bioavailability and plasma concentrations of drugs that are dual substrates of CYP 3A and P-gp. The net effect will vary depending on the relative affinity of the co-administered drugs for CYP 3A and P-gp, and the extent of intestinal first-pass metabolism/efflux.

Potential for Other Drugs to Affect tipranavir

1. Tipranavir is a CYP 3A substrate and a P-gp substrate. Co-administration of APTIVUS/ritonavir and drugs that induce CYP 3A and/or P-gp may decrease tipranavir plasma concentrations. Co-administration of APTIVUS/ritonavir and drugs that inhibit P-gp may increase tipranavir plasma concentrations.

2. Co-administration of APTIVUS/ritonavir with drugs that inhibit CYP 3A may not further increase tipranavir plasma concentrations, because the level of metabolites is low following steady-state administration of APTIVUS/ritonavir 500/200 mg twice daily.

Drug interaction studies were performed with APTIVUS, co-administered with 200 mg of ritonavir, and other drugs likely to be co-administered and some drugs commonly used as probes for pharmacokinetic interactions. The effects of co-administration of APTIVUS with 200 mg ritonavir, on the AUC, C_{max} and C_{min}, are summarized in Tables 4 and 5. For information regarding clinical recommendations (see **PRECAUTIONS, Drug Interactions, Tables 8** and **9**).

Table 4 Drug Interactions: Pharmacokinetic Parameters for Tipranavir in the Presence of Co-administered Drugs

Co-administered Drug	Co-administered Drug Dose (Schedule)	TPV/ritonavir Drug Dose (Schedule)	n	PK	Ratio (90% Confidence Interval) of Tipranavir Pharmacokinetic Parameters with/without Co-administered Drug; No Effect = 1.00		
					C_{max}	AUC	C_{min}
Atorvastatin	10 mg (1 dose)	500/200 mg BID (14 doses)	22	↔	0.96 (0.86, 1.07)	1.08 (1.00, 1.15)	1.04 (0.89, 1.22)
Clarithromycin	500 mg BID (25 doses)	500/200 mg BID*	24(68)	↑	1.40 (1.24, 1.47)	1.66 (1.43, 1.73)	2.00 (1.58, 2.47)
Didanosine	400 mg (1 dose)	500/100 mg BID (27 doses)	5	↓	1.32 (1.09, 1.60)	1.08 (0.82, 1.42)	0.66 (0.31, 1.43)
Efavirenz	600 mg QD (8 doses)	500/100 mg BID*	21(89)	↓	0.79 (0.69, 0.89)	0.69 (0.57 , 0.83)	0.58 (0.36 , 0.86)
		750/200 mg BID*	25(100)	↔	0.97 (0.85,1.09)	1.01 (0.85 , 1.18)	0.97 (0.69 , 1.28)
Ethinyl estradiol /Norethindrone	0.035/1.0 mg (1 dose)	500/100 mg BID (21 doses)	21	↓	1.10 (0.98, 1.24)	0.98 (0.88, 1.11)	0.73 (0.59, 0.90)
		750/200 mg BID (21 doses)	13	↔	1.01 (0.96, 1.06)	0.98 (0.90, 1.07)	0.91 (0.69, 1.20)
Fluconazole	100 mg QD (12 dose)	500/200 mg BID*	20(68)	↑	1.32 (1.18 ,1.47)	1.50 (1.29 , 1.73)	1.69 (1.33, 2.09)
Loperamide	16 mg (1 dose)	750/200 mg BID (21 doses)	24	↓	1.03 (0.92, 1.17)	0.98 (0.86, 1.12)	0.74 (0.62, 0.88)
Rifabutin	150 mg (1 dose)	500/200 mg BID (15 doses)	21	↔	0.99 (0.93, 1.07)	1.00 (0.96, 1.04)	1.16 (1.07, 1.27)
Tenofovir	300 mg (1 dose)	500/100 mg BID	22	↓	0.83 (0.74, 0.94)	0.82 (0.75, 0.91)	0.79 (0.70, 0.90)
		750/200 mg BID (23 doses)	20	↔	0.89 (0.84, 0.96)	0.91 (0.85, 0.97)	0.88 (0.78, 1.00)
Zidovudine	300 mg (1 dose)	500/100 mg BID	29	↓	0.87 (0.80, 0.94)	0.82 (0.76, 0.89)	0.77 (0.68, 0.87)
		750/200 mg BID (23 doses)	25	↔	1.02 (0.94, 1.10)	1.02 (0.92, 1.13)	1.07 (0.86, 1.34)

*steady state comparison to historical data